国立大学法人
静岡大学 大学文書資料室

大学文書資料室 かわら版

歴史に学び、未来を創る

2024年2月
第3号

大学文書資料室 展示案内

大学文書資料室では、このたび浜松地区で資料調査を行い、浜松工業専門学校学徒兵についての記録をまとめております。
ここでは、関係資料の紹介及び今後の展示についてご紹介します。

『地のさざめごと』・浜松工業会『会誌』『佐鳴』から

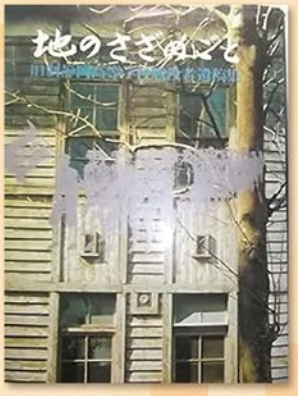
『地のさざめごと』は旧制静岡高等学校出身の旧制大学から出陣した兵士たちの日常記録、出陣への思いをつづった家族への手紙などを収録した作品で1966年、静岡大学として刊行され、当時、占領下に刊行されていた東京大学の『きけわだつみの声』では見られなかった学業半ばにして動員されることへの学問探求への深い思いと、その中断を余儀なくされた無念、そしてえん戦、反戦への思いなどが含まれていて、これを紹介した大江健三郎氏（ノーベル文学賞受賞者）は特に貴重な資料だと絶賛されたほどである。本書は大学独自出版と講談社による公刊書籍とがある。

この書には渡辺寧学長（元東北大学教授・電子工学研究者）の記載にもあるが、浜松工業専門学校（戦時下の名称）生の兵士としての記録の編集が待たれるとされたものの、その後の動きがみられぬままに終わった感がある。またそうした体験者も今日では多くが戦闘によることを含めて物故者が多く、故人の残された戦地からの手紙や学徒らしい思いをつづった記録などが今もってご遺族等に残されていればという思いも禁じ得ない。今回は、浜松工業会（同窓会）『会誌』『佐鳴』より記録を中心に多少たどることができる部分を摘録の上、展示することとした。多くは故人への追悼や華々しい戦歴への称賛が多いとはいえ、ごく少ないながらも、ご本人の肉声に当たる家族への便りなどの一端が記録されていて貴重である。

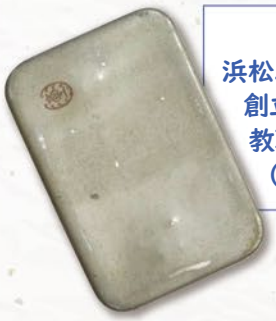
これらを知ることによって、「御国のため」とはいえ学業を中断しての寂寥を感じる当時の生徒たちの心情吐露に、その後を生きる私たちが厳粛に受け止め、二度とこの悲惨を繰り返させないことが重要だろう。特に戦地に動員され、あえなく命を奪われた人の詳報や数多くの弔辞は、当時の公刊雑誌であるため、称賛が多い中にも、若いみそらでの無念が伝わってくる。それに軍事企業への就職を余儀なくされた時代を示している。

山本義彦 静岡大学名誉教授

旧制静岡高等学校学徒の記録と浜松工業会誌



展示の一例



弁当箱
浜松工業専門学校
創立25周年祝
教職員に配布
（S24／3）

「お盆」
大学昇格
記念

是非。ご覧ください！

電子工学研究所 加瀬 特任助教 コラム

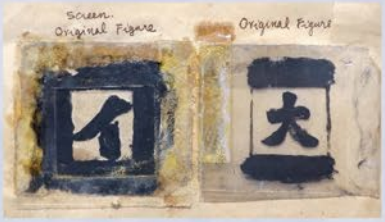
このたび、高柳記念未来技術創造館の加瀬特任助教から高柳記念未来技術創造館の紹介・今後の大学文書資料室との連携についてコメントをお寄せいただきました。
大学文書資料室は、2021年度キャンパスミュージアムのウェルカムエリア構想プロジェクトに参加し展示室リニューアルを行ったほか、今後、高柳記念未来技術創造館とも連携し、各種展示に力を入れていきます。

高柳記念未来技術創造館と大学文書資料室との連携について

高柳記念未来技術創造館は昭和36年9月に「テレビジョンの父」と呼ばれている高柳健次郎先生の業績をたたえて浜松キャンパス内に設立された施設です。この記念館は市民や小中高生の見学場所として開放されており、年間約2,000人にご来館頂いております。

高柳先生は1926年12月26日にブラウン管に「イ」の字を映し出すことに成功しました。本館2Fでは当時使用した雲母板の現物が展示してあります。他にも、大小50点ほどの戦後のテレビのコレクション（藤岡コレクション）や最先端の技術紹介ブースなどがあります。

現在はバーチャルミュージアム化も進めており、静岡キャンパスのキャンパスミュージアムと連携して相互に訪問可能なVR空間の製作や、大学文書資料室と協力し交流・情報発信を行う予定です。今後も時代に合わせた「新しい展示」を模索していきます。



雲母板に墨で書かれた「イ」と「大」の字

VRで再現された展示室

第12回キャンパスフェスタ in 静岡での企画展示報告

大学文書資料室では、2023年11月4日（土）、5日（日）に
「大学草創期の地質学者・地理学者 望月勝海教授の研究と教育」と題し、
本学で活躍された教員として望月勝海元文理学部長の特別展示を行いました。

静岡高等学校から草創期の静岡大学に在職した望月勝海元教授について、教授の生涯をデジタル解説や展示にて紹介するとともに、これら日記等の一部を特別に公開・展示したところ、新型コロナ感染症流行前の開催時を超える約200名にご来場いただくことができました。

当室の独自アンケートによると大型年表やジオラマなどの常設展示に加え、望月教授の日記や資料についても多くの意見が寄せられ、関心の高さがうかがえました。とくに当日、望月先生のご子息光さんご夫婦をお迎えでき、望月氏の素顔の一端をより深くつかめたことは貴重です。また、昨年に引き続き実施した山本名誉教授によるデジタル資料解説も幅広い層に好評でした。今後もアンケートによる意見等をふまえ、展示の在り方等について検討していきたいと考えています。

展示の様子▶

多数の日記や関係資料を展示しました

熱心に山本名誉教授の解説に聞き入る来場者

望月勝海元教授（学生部長、文理学部長）について ちょこっと解説

旧制静岡高校が新制静岡大学に転換する時期、旧制師範学校、浜松工業専門学校との統合で大活躍し、文理学部教授を務め、学内行政はもとより、多数の地質学・地誌学などの専門書や啓蒙書を出すなど学界のリーダーのおひとりでした。同氏の几帳面な小学校4年生の時期から57歳の死去するまでの日記が圧巻です。

国立大学法人
静岡大学 大学文書資料室
https://wwp.shizuoka.ac.jp/archives/
〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷836
TEL：054-238-3623
archives@adb.shizuoka.ac.jp